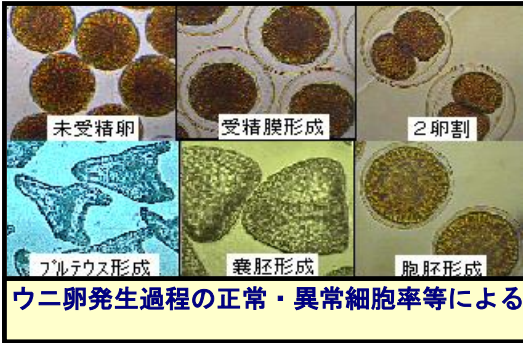


環境アセスメント関連業務

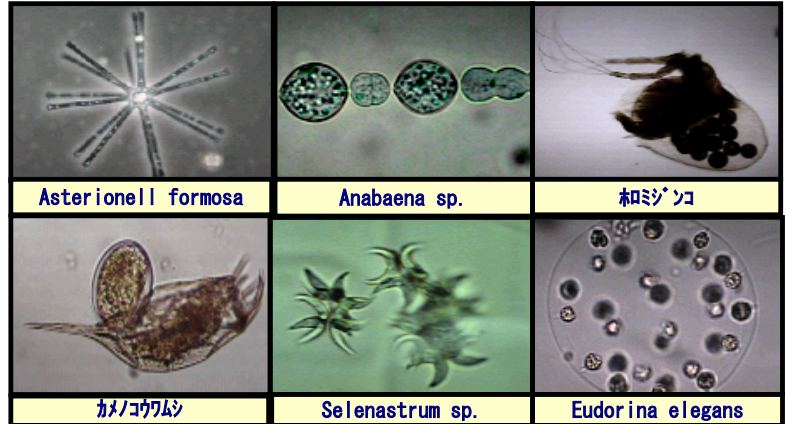
生物を中心とした

科学技術の進歩に伴い、種々の環境汚染が進行しつつあります。その中でも、水生生物に及ぼす水質汚染は、深刻な問題になって来ております。一般に水質の判定は、物理・化学的方法がもちいられますが、これらの方法では、個々の要因・物質の量、質的説明は出来るものの、水質の複合状態の判定に対応した方法とは言えません。



ウニ卵発生過程の正常・異常細胞率等による

これに対し、水生生物の調査分析や生物検定“Bioassay”は、物理・化学的方法と併用することにより、よりその全体像をとらえることが可能となります。

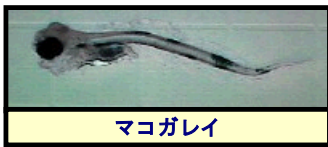
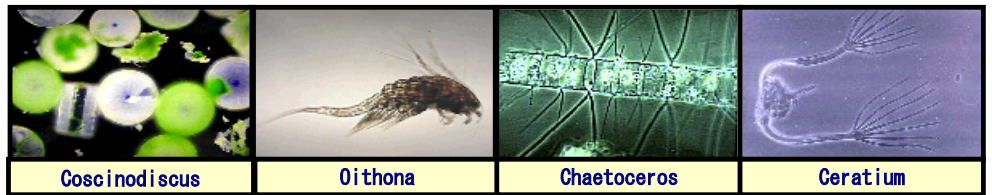


湖沼では、魚類やプランクトンの調査が重要な位置をしめ、特にダム建設や関連アセスでは、必ず行われる項目の一つです。

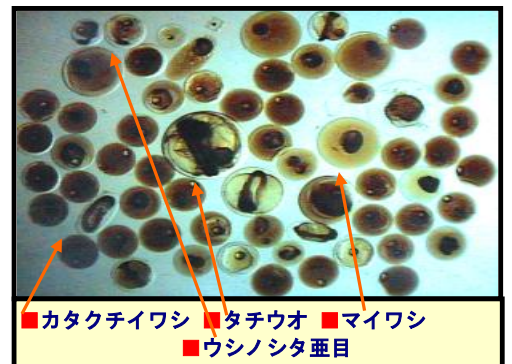


河川においては、水生昆虫や、付着珪藻の分析が主たる業務になります。

海の生物調査では、プランクトンを始めベントス（底生生物）潮間帯生物、藻場生物（潜水による）、浮遊性魚卵・稚仔魚等が上げられます。



また発電所取放水管内の付着汚損生物による被害は深刻な問題になっております。従来は有機スズや塩素注入による付着防止を行っていましたが、その危険性が指摘されてから環境に配慮し防止効果が上がる方法を模索しています。



Plant Bio co., Ltd.